

居し、残りは別、ベツカリ苅邊に住す、

ル。○モツ。○へ領。本名ル、モヲツベと云ル、は汝、モは靜、ヲツはある入る、べは水の事也、此川自

然と奥深く汐入る故に號く、是運上屋元の川の名也、今此地の總名となる、○中運上屋○註地形

亥子向前にシリエトの岬有東にエンルと對し、其間一灣をなし、船懸りよし、後ろ方川筋、總て平

地、○中土人多し、文政壬午改九十九軒、二百七十一人、安政乙卯改六十二軒、二百七十一人、

筈前領、トマ、イ譯して延胡索、綱有る義、本名トマヲマイ也、總て此邊り延胡索多きが故號し

もの哉、○中筈前運上屋、○註北はハホロ、南ノツトの間を一灣とし、戌亥向、○中土地肥沃、雜穀野

菜能みのる、○中當節土人人別多くテシホより移任者也、文政壬午改四十八軒、二百十一人、安政乙卯改二十町、百九人、

〔東蝦夷日記初編〕山越内領、○中山越内、制札會所、旅宿所、板藏、五、武器藏、建屋、備、本名ヤムウシ内にて、

栗多澤ムツナの義、其地今のサカヤ川也、昔し其所に會所有し、故場所の總名となる、此所の本名はバロ

シベウシとて、往古關柵を結し、時用ひし木の切株多を以て號しと、

虻田領、○中フレナイ、○註是をアフタノ會所といへり、其儀は元虻田に有りしが、文政五壬午

閏正月十五日、白岳燒の時、此所へ移したる故、其名残れるなり、地形西南を受、船懸り惡し、皆アフ

タに懸り、荷役するなり、海を隔て内浦岳に對し、風景宜し、○中土産鮭是は多く、レリヘツの川筋

にて取、馬にて爰に出すもの多し、冬、鱒、春、鱒、海鼠、昆布、ふのり、鱒、雜魚種々有、又巨材多く、椎茸あつ

し多く、土人、文政壬午改百七十軒、人口八百人、安政丙辰改百六十四軒、人口六百餘、多し、

〔東夷竊々夜話十七〕江友場所、大概書上

一江友會所壹ヶ所、○註一諸蘭番屋壹ヶ所、○中一蝦夷家二拾五軒、一蝦夷男女百十六人、

内、男五十三人、女五十三人、右之通御座候、以上、